

公立大学法人金沢美術工芸大学

第2期中期目標期間

業務実績（見込）評価書（案）

（平成28年度～令和3年度）

令和2年 月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1~2
1	評価の構成.....	1~2
2	項目別評価.....	1~2
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~8
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した中期計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の4段階の区分により、その達成状況を判断理由を付して評価する。

※ 中期計画の大項目第6から第10に関しては業務実績（見込）のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	中期計画を上回って実施している
Ⅲ	中期計画を十分に実施している
Ⅱ	中期計画を十分には実施していない
Ⅰ	中期計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績（見込）を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、以下の5段階の区分により達成状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

中期計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標の達成状況が良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標の達成状況が概ね良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標の達成状況が不十分である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績全体について記述式により総合的に評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

□ 全体評価

中期計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標の達成状況が良好である）であり、第2期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）に係る業務実績（見込）に関しては、全体として「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）に引き続き、第2期中期目標期間においても、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられる。

以下に、大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・教養科目において、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的能力や自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解する能力を培うため、新たに「金沢の文化行政」などの科目を開設するとともに、実務経験の豊富な教員や講師を配置することにより、教育内容の改善に努めてきたこと。また、基礎科目においては、専門以外の実技を経験する集中履修期間を堅持するとともに、ファッションデザインなど新たな領域の科目を開設して選択の幅を広げることにより、多様な表現力を養う教育を実践してきたこと。
- ・金沢市と協働で実施してきた「平成の百工比照収集作成事業」について、継続的に収集・作成した資料約7,000点を美術工芸研究所ギャラリーで常設展示し、その研究成果を広く公開したほか、「4K動画による工芸技術記録」を作成するとともに、資料全体のデータベース化を進めるなど、工芸研究の拠点形成に取り組んだこと。
- ・金沢マラソンの「完走者メダルデザイン」など多くの地域連携事業を受託し、大学の存在意義を多方面に発信するとともに、珠洲市で開催された奥能登国際芸術祭において高評価を得た当大学の教員・学生チーム「スズプロ」の作品公開を継続するなど、教育研究成果の社会への還元に努めたこと。
- ・金沢市や設計業者と協議し、「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」という新キャンパス基本コンセプトの実現に向け、新たな芸術創造の拠点として専門の垣根を越えた「共通工房」を設けることとするなど、大学の意向を設計に反映させたこと。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標の達成状況が良好である）
-----------	----------------------------

中期計画記載の 23 の小項目のうち、IV評価（中期計画を上回って実施している）が5項目、III評価（中期計画を十分に実施している）が18項目と、全ての項目がIV又はIII評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 企業や地方公共団体等からの依頼に基づき、その内容及び教育的な効果を確認した上で、積極的に産学連携事業や地域連携事業に取り組むとともに、多くの学生の参画を促し、実践的な能力を身に着ける教育を実施することにより、金沢の文化に根ざした特色ある教育を推進したこと。
- ・ 学生の課外活動に教員が指導や助言を行ったほか、大学独自の「学生展等開催交付金」、「公募展出品等事業補助金」及び「ワールドワイド奨学金」を支給して、作品発表や海外での活動を支援したこと。また、学生が金沢 21 世紀美術館のコレクション展及び特別展を無料で何度でも鑑賞できる「金沢 21 世紀美術館キャンパスメンバーズ」に初めて加入し、現代アートに関して自主的に学ぶ機会を充実させたこと。
- ・ これまで大学独自の「授業料等減免制度」により修学支援を行ってきた大学院生が、令和2年度より開始した国の修学支援新制度では対象外とされたが、新たに国に準じた制度を大学独自に整備し、支援の対象範囲を拡充して修学支援を継続したこと。また、大学独自の学生顕彰制度として「KANABI クリエイティブ賞」や「けやき賞」を授与するなど、学生の活動を啓発するとともに、人材の育成に寄与したこと。なお、今後はさらに効果的な学生支援に努めるとともに、コロナ禍における新たな修学支援策を講じていくことを期待したい。
- ・ 学生からの要望を取りまとめ、その対応策について学生自治会執行部との意見交換会を定期的に行い、真摯に対応してきた結果、着実に教育環境の改善を進めてきたこと。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の7の小項目のうち、Ⅳ評価が3項目、Ⅲ評価が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 大学の特色を活かした国際的水準の研究として、「平成の百工比照収集作成事業」を継続して実施していること。特に元年度には韓国・清州市で開催された「清州国際工芸ビエンナーレ」に参加し、初めて海外での展示を行ったほか、金沢市で開催された「ユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議 2019」においても、大学の研究成果を公開するなど、従来の活動をさらに充実させ、国際的な重要度の高い貴重な機会を得たこと。
- ・ 大学ホームページ内に「機関リポジトリ」を新たに設け、研究成果物の保存と発信に努めるとともに、「教員研究発表展」や「柳宗理デザイン展」を開催するなど、大学が取り組んできた研究の成果を積極的に公開していること。なお、今後は新キャンパスにおける美術館整備を念頭に置き、研究成果がさらに効果的かつ計画的に蓄積・公開されることを期待したい。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の8の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が6項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 交流協定締結校との国際交流を充実させ、更なる連携強化に努めてきた一方、東アジア地域の優れた美術系大学とのネットワークを構築し、当大学を拠点とする大学間交流を推進するため、元年度からの5年計画を立て、海外協定校のさらなる拡充を積極的に進めていること。なお、今後の国際交流事業に関しては、現下のコロナ禍における状況を鑑みて、適切かつ着実に推進していくことを期待したい。
- ・ 研究生制度を活用して大学院における外国人留学生の拡大を図るとともに、新たに日本滞在中の外国人留学生を対象とした「KANABI 工芸セミナー」を開講し、当大学の魅力を発信したこと。なお、今後も引き続き、外国人留学生の受入れ体制や環境を検証し、改善に努めていくことを期待したい。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の8の小項目全てがⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 大学院改革を視野に入れて大学院専任制度を見直すとともに、学長裁量で人件費の配分を変更することにより、各専門領域の客員教授を増員し、大学院を中心とする専門教育の高度化に努めたこと。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の10の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が9項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 企業や地方公共団体等からの社会連携の依頼に基づき、新しいデザインの提言など当大学の特色を活かした取り組みにより、当初予算計上額を毎年度大幅に上回る受託研究収入を得てきたこと。なお、現下のコロナ禍における状況を踏まえれば、企業や地方公共団体等からの依頼が減少傾向に陥ることも予想されるが、今後は資金を有効に活用し、研究の質をさらに高めていくことを期待したい。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の4の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が3項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 多様な媒体を活用した積極的な広報活動を行ってきたことに伴い、毎年、オープンキャンパスに全国より多数の参加が得られたこと。なお、今後も引き続き、広報活動の強化に努めるとともに、新キャンパスへの移転に向けた効果的なプロモーション事業を展開し、機運を醸成していくことを期待したい。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の8の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が7項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパスの整備について、各科・専攻等の希望を取り入れ、各諸室の機能面や導線の確保を重視しつつ、共通工房やアートコモンズを特色とする、基本コンセプトを実現するための詳細な空間レイアウトを協議するなど、大学の意向を設計に反映させたこと。